

1. 調査報告概要表

作成日平成 19年 8月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	2671500250
法人名	社会福祉法人 アイリス福祉会
事業所名	グループホームかたらいの家
所在地	京都府南丹市八木町西田早田3番地 (電 話) 0771-43-0228

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	大阪市北区天満橋2丁目北1番21号		
訪問調査日	平成19年7月13日	評価確定日	平成19年9月14日

【情報提供票より】(平成19年5月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 4 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.7

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,000(光熱費) 円	
敷 金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(90,000円)	有りの場合 償却の有無	退所時に全額返金	
食材料費	朝食	344 円	昼食	516 円
	夕食	573 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.3 歳	最低	69 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	各シミズ病院グループ、南丹病院、平岡医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に根ざした医療法人グループの社会福祉法人によって開設されたグループホームで、のどかな環境の中に特養と少し離れたところに立地しています。ホーム内は広々としていて季節の花々や入居者の作品が飾られており、昔馴染みの物品が並んだ和室や入居者同士が集まれる場所があり居心地の良い空間づくりがされています。開設より職員の異動がほとんど無く、馴染みの関係が作られています。また、職員は管理者と話し合いをしながら毎月のケアに対する個人目標設定や日々の振り返りを通して、高い志を持って前向きなケアが実践されています。入居者は毎日日課となっている神社までの散歩、日常の家事全般、月1回の個別外出、コンテストに向けての案山子作り、家族会、回想法などのさまざまな事を通して楽しみながら活き活きと過ごされています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の際の改善点について職員間で話し合い検討しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については会議にて職員と共有し、項目の理解を深めて話し合いながらサービスの質の向上に役立てています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族、自治会長、社協所長、社会福祉センター所長、地域ボランティアの方、市職員、地域の知見者が出席する運営推進会議ではホームでの取り組みを報告したり、意見を頂いてケアに活かされています。また、会議参加者はホームで実施される回想法に参加したり、救命救急講習を一緒に受ける(予定)など、一体となりより良い会議にしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームに来られた際や電話にて家族とのコミュニケーションが図られています。年に4回家族会を実施し、和やかな会の中で本音を言える場面づくりがされています。また、ホームに意見箱を設置し気軽に相談出来る仕組みが取られており、重要事項説明書にもホーム、市、国保連、社協の苦情受付が明確に記載され、同法人の特養も案内しています。また、問題については話し合いの機会を持ち、解決に取り組んでいます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市主催の案山子コンテストに毎年出品したり、町主催の福祉祭りにホームで作成したにおい袋などバザーに出品したり、地蔵盆のお手伝いなど地域の一人として活動に積極的に参加されています。また、ホームで回想法を実施し、地域の方がホームに来られたり、幼稚園との交流が図られています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念が掲げられており、現在「地域」とどう関わりを持っていくかを職員間で話し合っている。	○	今後、職員と話し合われて決められた、地域の中でその人らしく暮らしていく理念を掲げる事が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は申し送り時や毎月の会議にて理念の実践に向けて話をしている。日々ケアについて振り返る事や月間目標についても話合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市主催の案山子コンテストに毎年出品したり、町主催の福祉祭りにホームで作成したにおい袋などバザーに出品したり、地藏盆のお手伝いをしたり、地域の一員として活動に積極的に参加している。また、ホームで回想法を地域の方を招いて実施したり、近所の方に畑をかりて交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については会議にて共有しサービスの質の向上に役立っている。前回の外部評価の際の改善点についても職員間で話し合い検討している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、自治会長、社協所長、社会福祉センター所長、地域ボランティアの方、市職員、地域の知見者が出席する運営推進会議ではホームでの取り組みを報告したり、意見を頂いてケアに活かしている。地域の方にも興味を持っていただく内容にするため、毎回、工夫し、回想法に参加して頂いたり、救命救急講習を一緒に受けていただく(予定)など、出席者と一体となりより良い会議にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市と連絡を密にとり、相談しやすい関係づくりがされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には訪問時や電話にて暮らしぶりや健康状態について報告をしている。年に4、5回「かたらいの家たより」を発行してホームでの取り組みを報告したり、家族会などでも報告している。また、日頃の様子や行事の写真を個人別アルバムにしており、家族の方も楽しみにされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに意見箱を設置し気軽に相談出来る仕組みが取られている。重要事項説明書にもホーム、市、国保連、社協の苦情受付が明確にされており、同法人の特養も案内している。また、問題については話合いの機会を持ち、解決に取り組んでいる。また、家族会の中でも職員から積極的に家族に対してヒアリングされ、意見を吸い上げる努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設より4年3ヶ月で非常勤1人のみの離職である。法人内での異動も無く、馴染みの職員でのケアがされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ研修に参加し、報告書の作成と伝達研修を行なっている。また、グループホームの毎月目標と個人別目標を設定し、スーパーバイザー資格を持つ管理者と話し合っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府のグループホーム連絡会での会議や研修に参加している。その際、困難事例などを話し合い、ケアに活かせる取り組みをしている。また、関連グループのホームより研修に来られ、その際ホームを見てもらい気づきを得る良い機会にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学の際に入居者の方と一緒に過ごしている。入居後は関わりを大切にし、家族と相談しながら、徐々に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	物づくりや日々の生活において一緒にしながら入居者から学んでいる。先生になってもらう場面作りを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族とのコミュニケーションを通じて希望や意向を把握し、一人ひとりきめ細かいケアチェック表を記録し、ケアプランと一緒に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	長期目標を掲げ、それを達成するための短期目標を記載した個人別のケアプランを作成している。入居者の意向については日頃のコミュニケーションにて聞き取り、職員の意見はカンファレンスにて話し合い、家族の意見はホームに來られた際に希望を聞いてケアプランに反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの期間設定に合わせて3ヶ月に1度モニタリング、カンファレンスを実施し、家族や主治医にも相談して見直しを行っている。日々の記録についてもケアプランにそって個人別にきめ細かい記録がされて、短期目標を日々確認しながら、目標にそったケアを実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月1回の個別外出、通院サービス等を支援している。また、ケアハウスにお住まいの方に芝刈りを手伝って頂いたり、趣味のパソコンを活かしているような情報をいただいたり交流を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医との連携が図られている。また、医療法人グループの一員ということもあり、安心した体制(24H体制)がとられている。さらに、隣接の特養の医師や看護師に相談したりアドバイスをもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	最近入所した方には、家族と相談しながら終末期のあり方について共有化しているが、ホームとしての方針は現在検討中である。	○	前回の家族会にて話を進められている。ホームとしての指針の決定が今後期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本的に呼び方は「さん」付けで丁寧語で話されているが場面に応じて方言を使ったりしている。また、同性介助を行っており、プライバシーの確保に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や意向を把握しながらペースを大切に、無理に勧めたり、押し付けたりしない支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は委託されているが、月3回の夕食と週1回のおやつを入居者と一緒にホームで作っている。食事の準備や配膳、後片づけを通して自然に役割が出来ている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望にあった入浴を支援している。毎日の入浴や夜間入浴も可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個別レクリエーション、家事全般、趣味の大正琴、日々の散歩などの日常生活支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望にそって、毎日の散歩や買い物に出かけている。また、月1回の個別外出にて、本人の希望に基づいた支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の特養と合同訓練をしたり、グループホーム定例会にて毎月の救命救急や防火訓練を実施している。また、運営推進会議の中で救命救急講習を予定しており、地域の方々の協力を得られるようにも働きかける予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されバランスの取れた食事が提供されている。食事摂取量は必要時に、水分は必要な方のみ記録している。入居者の状況に応じて、刻み食など調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感溢れる花々やレクリエーションで作られた作品を玄関やホーム内に飾っている。また、和室に昔使われていた卓袱台やミシン、火鉢、鏡台などが置かれており、回想法にもなるレトロな空間づくりがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた馴染みのタンスや布団、鏡台、仏壇が持ち込まれており、手作りの作品や写真が飾られ、入居者にとって居心地の良い空間作りがされている。		